

新聞畫會

第廿二号

大阪本田町住軍魁利兵六  
 其性直実強毅事二望んや  
 一命やも不惜と議ふる哉  
 四月廿九日大知河内の国境  
 暗り峠を行くる小所の  
 者兵張番し道普請  
 のため出銀を募る  
 出さぬ者、通ぎいと  
 拵むをき、新道でき  
 たる上あつた相應  
 助カもせべれど  
 お道わきの障りせか  
 前錢取と不埒千万街道  
 物に負ふ山賊はやう此高れも倅あつん  
 引板番人共を追立々々戸長  
 堀縣迄案内せよと  
 義論の末役人偶々縣へ出敷日對変ニ及びびが利兵とら  
 理べ免と解伏られ斯ドヤサカイの云伏り明り  
 立ざる暗り峠助カハ人々の心まうせ又軍魁が滞在  
 中雜用不殘所の者あり可償え事漸平きぬと



軍魁利兵

利兵六

八尾長

實ニ軍魁の名望しつた  
 万人の為と害と  
 除く

今幡隨院も  
 稱して  
 可あつん

次